

「牛が牛舎から出て行った理由」がわかりますか？ ～検定成績表の除籍理由コードを活用しよう！～

今回は乳牛の健康管理において最も基本となる「牛が牛舎から出て行った理由」(以下「除籍理由」)の活用方法を紹介します。この情報活用は、検定農家が正確な除籍理由コードを検定員に報告するところから始まります。除籍理由の適用事例は図1のように整理しています。牛舎内で発生した疾病等をきちんと記録することによって、検定立会時に正確な報告が可能となりますので注意して下さい。

除籍理由は様々ですから、実際の現場では迷うような例もあると思います。そういった時は図1の適用事例を確認して下さい。

図1 除籍理由の適用例

除籍理由	具体例
50: 乳用売却	売却先でも搾乳されることを期待される牛の販売による除籍(個体販売)、搾乳施設の不足などにより健康牛を売却した場合を含む
51: 乳房炎	乳房炎、体細胞数の高い牛の淘汰
52: 乳器障害	乳器損傷、乳房浮腫などによる淘汰
53: 繁殖障害	卵巣のう種、胎盤停滞、子宮内膜炎、双子分娩などにより、結果として受胎しない牛の淘汰
54: 肢蹄故障	骨折、脱臼、蹄葉炎、蹄底潰瘍、蹄球びらん、趾間腐乱、壊死などによる淘汰
55: 消化器病	第4胃変位、ルーメンアシドーシス、鼓脹症、ケトーシスなどによる淘汰
56: 起立不能	乳熱、低カルシウム血症、ダウンナーなどによる淘汰、分娩時以外の起立不能も含む
58: 低能力	低乳量、低成分による淘汰、悪癖を持つ牛や気性の荒い牛の淘汰を含む
59: 死亡	突然死、選択肢にない疾病(伝染病、遺伝病、寄生虫、白血病など)によりと畜処分した牛を含む

毎月の牛群検定成績表の1枚目の中央やや下に「年間追加除籍牛」が表記されています。図2は広島県と都府県の1年間の集計結果を表記したものです。この成績の見方のポイントは、広島県や都府県の平均値と比較してみることです。当団では、検定成績表をより理解しやすくするために各県や都府県全体の平均値をホームページに公開しています。今回紹介している除籍理由に限らず全ての成績の平均値が公開されていますので、是非一度ご覧になって下さい。パソコンのグーグル検索で「牛群平均情報」と検索するとトップで表示されます。

さて、次に図2の広島県平均をひとつの農家に見立ててヒロシマファームとして都府県平均と比較してみましょう。

①追加

ヒロシマファームでは、未經産の追加比率が5.4%と都府県平均と比較して低いことがわかります。未經産牛の積極的な検定加入をお願いします。

図2 平成23年7月～平成24年6月までの1年間の除籍理由

年間追加除籍牛	追加		除籍										計	除籍率
	頭数	追加比率	乳器障害(乳房炎)	繁殖障害	肢蹄故障	消化器病	起立不能	疾病計	低能力	死亡	乳用売却			
未經産	217	5.4	8.3()	8.3		16.7	8.3	25.0	41.7	16.7		12		
1産	832	20.6	7.4(4.4)	11.3	9.3	3.9	4.9	18.6	23.5	26.5	12.7	204	5	
2産	59	1.5	15.3(8.7)	13.0	4.0	4.0	3.3	11.3	35.3	19.0	6.0	300	7	
3産以上	106	2.6	14.1(6.3)	10.7	8.5	3.4	5.5	17.5	33.1	19.9	4.8	704	17	
除籍日までの年齢(歳・月)	5-6 (5-3)		5-10	5-8	5-0	5-0	5-4	6-1	5-2	5-2				
除籍日までの分娩後日数	270 (266)		501	246	243	242	244	408	298	302				

(注) 都府県平均には乳用売却は含まれておりません

②繁殖障害

ヒロシマファームでは、都府県平均と比較して繁殖障害の発生比率が低いようです。これは大変良いことですので、この傾向が続くようにします。

③疾病

若干ですが、ヒロシマファームの初産牛は疾病で除籍されることが多いようです。初産牛の疾病の中でも肢蹄故障が都府県平均と比べ発生頻度が高いようなので、初産牛の肢蹄関連の管理(削蹄や濃厚飼料等)を再確認すると良いでしょう。

④低能力

ヒロシマファームでは、都府県平均と比較して低能力で除籍する例が多いようです。

これは低能力牛が多いという意味ではなく、改良上の淘汰がより積極的に進んでいることを示す良い兆候となります。ただし、未經産牛の除籍牛のうち41.7%(5頭に相当)が低能力として除籍されています。わずか5頭ではありますが、搾乳前の育成牛を低能力と判断するのは早計でしょう。

年間追加除籍牛	追加		除籍										計	除籍率
	頭数	追加比率	乳器障害(乳房炎)	繁殖障害	肢蹄故障	消化器病	起立不能	疾病計	低能力	死亡	乳用売却			
未經産	17427	8.6	2.1(1.2)	15.0	1.8	1.8	3.1	8.0	4.4	24.3	42.9	1098	1	
1産	41257	20.4	8.7(4.7)	17.7	5.3	3.1	3.7	15.8	14.2	24.8	15.0	7904	4	
2産	1685	0.8	12.6(7.1)	18.9	4.9	2.7	3.7	15.3	16.3	21.6	11.4	10866	5	
3産以上	2526	1.2	14.8(8.1)	15.2	5.7	2.7	4.2	17.1	16.0	22.3	10.8	31415	16	
除籍日までの年齢(歳・月)	5-10 (5-9)		6-0	5-9	5-4	5-9	5-9	6-1	5-8	5-6				
除籍日までの分娩後日数	284 (273)		468	270	240	286	277	391	323	330				

(注) 都府県平均には乳用売却は含まれておりません

このように、牛群平均情報と比較することで、各農家の管理上の良いところや課題を確認することが出来ますので、この記事をご参考し是非ご自身の検定成績表を見て下さい。今後の経営に役立つ事が発見出来るものと思います。

これらに関する問い合わせは岡山種雄牛センター(電話 0868-57-2475、担当・小園)まで。